

予算特別委員会（令和3年3月9日～3月22日）

高橋雅成議員の質疑

サステナブルな行動啓発について

<3月15日>



（注）サステナブルとは？
「持続可能な」という意味。
資源を使いすぎず、地球を壊すことなく、豊かな環境を持続させる社会を「サステナブル社会」と言います。

（高橋議員） 国連サミットで採択された持続可能な開発目標、SDGs について、公明党は機会あるごとに議会で取り上げ、その認知度アップや行動を促してきました。最近では日常生活の中で SDGs という言葉を聞くこともたびたびあります。

しかし、公明党福岡県議団が昨年4月に実施した県民調査では、SDGs の認知度は 33.6%でした。SDGs には、「気候変動に具体的な対策」をはじめ環境に関する項目も複数あります。県環境部として SDGs の認知度を上げるため、どのような施策に取り組んできたのか、お伺いします。

（環境政策課長） 県民・事業者・行政が一体となって環境保全の取り組みを推進する「福岡県県民環境会議」において、SDGs の内容や理念を紹介するとともに、SDGs に即した取り組みを行うよう、働きかけているところです。

また、県教育委員会と連携して作成しております、環境教育副読本「みんなの環境」や「地球温暖化対策ワークブック」においても、SDGs の内容を子ども向けに分かりやすく紹介するなど、次代を担う子どもたちに対する SDGs の普及啓発にも取り組んでおります。

このほか、毎年6月に県庁1階ロビーで実施しております「環境月間ロビー展」において、SDGs を紹介するパネルを展示するなど、広く SDGs の普及啓発に取り組んでおります。

今後とも、こうした取り組みを通じて、SDGs の認知度の向上に取り組んでまいりたいと考えております。

(高橋議員) 最近は、エコやサステナブル(持続可能な)をうたった広告や商品を見かけることもしばしばあります。そうした中、昨年7月にはレジ袋が有料化され、買い物用のマイバッグを持ち歩く人も増加しています。エコバッグ、マイバッグを持つ人を増やすため県としてどのような取り組みをしているのか、お尋ねします。



(循環型社会推進課長) 本県では、これまで、マイバッグキャンペーンを実施し、マイバッグの持参によるレジ袋の削減に取り組んでまいりました。

今年度からは、プラスチックごみ対策を一層推進するため、マイバッグキャンペーンを拡充し、広くプラスチックごみの削減に取り組む事業所を「ふくおかプラごみ削減協力店」として登録し、ポスターなどの掲示により、県民に対する啓発活動を行っていただいています。

また、10月をプラスチックごみ削減の強化月間として啓発活動を行っており、その結果、今年度は、1ヶ月間でプラスチックごみ約610トン、レジ袋で換算すると、約9,000万枚相当が削減されております。

(高橋議員) 次の質問に入る前に「ふくおかエコファミリー応援アプリ」の紹介チラシの配布・説明をお願いします。

サステナブルな行動が注目されるようになった社会の変化の背景には、気候変動やマイクロプラスチックに対する懸念や危機感があり、特にSDGsが目標とする2030年までの10年間で地球と人類の将来を決定づけるという論調にはショッキングなものを感じます。そのような状況の中、国はレジ袋有料化に次いで、使い捨てのプラスチックスプーンやストローの削減に取り組む方針を示しています。

サステナブルな社会や環境を実現するための取り組みは極めて重要だが、それには、県民一人ひとりの行動の変容が不可欠となります。

サステナブルな行動を県民に促すため、県としての取り組みをお聞きします。

(環境保全課長) 持続可能な社会を実現するためには、県民一人一人の、環境に配慮した行動が重要です。

そこで県では、省エネや省資源など地球環境にやさしい活動に取り組む県民の皆様を「エコファミリー」として募集・登録し、その取り組みを支援する「エコファミリー応援事業」を実施しています。

昨年3月からは、より多くの方にエコファミリーに参加していただき、活動を一層支援・拡大するために、「ふくおかエコファミリー応援アプリ」(愛称「エコふぁみ」)を開発し、運用しています。

このアプリでは、エコファミリーの登録や、電気・ガスといったエネルギー使用量の記録などがスマートフォン上で簡単に行えるとともに、抽選でプレゼントが当たるという特典もあり、楽しみながら地球環境にやさしい活動に参加いただけるものとなっています。

これまでに、県ホームページや「福岡県だより」、広報テレビ・ラジオ、新聞、福岡県民手帳への広告掲載、県庁1階ロビー展など、様々な媒体や機会を活用し、周知を行っています。

また、今年4月からは九州各県と連携して、このアプリの対象エリアを九州7県に拡大し、さらに取り組みを広げてまいります。

(高橋議員) 「エコふぁみ」の取り組みは非常に意義深いと思います。そのうえで、調査会社の株式会社インテージが、今年2月、生活者によるサステナブル行動と題するレポートを発表しています。サステナブルな行動45項目をリストアップし、どれくらいの頻度で取り組んでいるかを聞きました。80%以上の方が取り組んでいたのが、「誰もいない部屋の照明は消しておく」「歯を磨いている間は水をとめる」「レジ袋は使わない」「ものが壊れたら、まずは直せないか試みる」の4項目。70%以上行っていたのは「詰め替え容器に入った商品を選ぶ」「リユース、リサイクルできるものを確認し、ごみの分別をしっかりと行う」。そのほか、60%以上、50%以上などの取り組みの項目を調べています。一方で、15%未満しか行っていない項目は、「歯ブラシはヘッドが交換できるもの、もしくはバンブー素材にする」「お弁当を買うときは、プラスチックではなく紙のパックに入っているものを選ぶ」「生ごみや落ち葉、雑草などを処理して堆肥化する『コンポスト』をしている」などの9項目。25%未満しか行っていない項目は24項目という結果を報告しています。また、そうした行動をとっている理由については、「良い行動だと思うから」「社会全体のためになるから」「自分にとってメリットがあるから」などが上位だった。県としてサステナブルな行動リストを作成し、県民に行動を促すことは非常に意義があると思うが如何でしょうか。

(環境保全課長) 委員御指摘の、行動リストの作成は、県民一人ひとりの具体的な行動につなげていくために非常に重要なことと考えます。

「エコふぁみ」には、「冷暖房を適切な温度で使用する」、「マイバッグを持参する」、「外食は自分が食べ残さない量を注文する」といった項目のチェックにより、日々の環境にやさしい行動につなげていく「毎日エコチェック」機能を設けています。

また、地球温暖化対策に関する情報を広く掲載した「ふくおかエコライフ応援サイト」では、省エネやゴミの減量などに関し、具体的な行動を促すアドバイスや情報をまとめて掲載しています。

今後、これらの内容については、県民の皆様がより一層、環境にやさしい行動に参加していただくことができるよう、時勢の変化に合わせて追加・見直しを行い、取り組みを進めてまいります。

(高橋議員) 「エコふぁみ」にしても、登録者数を増やすことが大事だと思います。現在の登録者数が約6,000人ということでしたので、周知徹底、しっかりお知らせして、知っていただいて、取り組んでいただく人をどれだけ増やすことが出来るかが一番大事ではないかと思います。

SDGsは、2030年を目標年度としていますので、今年から10年です。気候変動などの目標を達成しなければ、手遅れとなるとの指摘があります。この間に県民一人ひとりが自分で取り組める行動を啓発することについて、部長の考えをお聞きしたいと思います。

(環境部長) 委員ご指摘とおり、この10年が勝負と思っています。そういう意味で、我々も色んな取り組みを行っておりますし、今、エコファミリーのアプリにしましても、若者向けにということで、それまで紙ベースだったのを何とか色んな人に知っていただいて、気持ちを変えてもらう、環境に優しいということをお願いしたいということで、取り組みを進めております。

委員がおっしゃったように、「エコふぁみ」、1年近くになるのですが、6,000人ではまだ少ないと私どもも思っております。今日、こういう形で取り上げて頂きましたので、委員の皆さまにも、是非、理解していただき、広めて頂ければと、思っております。